1　教育目標

名古屋市の学びの方針

「ナゴヤ学びのコンパス」より

＜実現したい市民の姿＞	自由な市民として互いに認め合い、共に社会を創造する
＜目指したい子どもの姿＞	ゆるやかな協働性の中で自立して学び続ける
＜重視したい学びの姿＞	・自分に合ったペースや方法で学ぶ　・多様な人と学び合う　・夢中で探究する
＜大人が大切にしたいこと＞	子どもは有能な学び手であると理解し、子どもの学びに伴走する
	・子ども一人一人の思いや願いを尊重する ・子どもと対話する ・子どもの自分なりのチャレンジを大事にする

学校努力点推進計画

☆　本校が目指す生徒像

≪　供米田中学校　校訓　≫　　自律　　協力　　礼節

○　自ら考え、正しい判断・行動ができる生徒（自律）
○　みんなが安心安全に学校生活を送るための行動ができる生徒（協力）
○　困ったときは誰かに相談することができる生徒（協力）
○　爽やかな挨拶と丁寧な言葉で人と接することができる生徒（礼節）

2　本年度学校教育の努力点

すべての生徒が学びに参加し、夢中になる授業づくり

※　「すべての生徒」とは･･･　クラス全員

※　「学び」とは･･･　①分からなかったことが分かるようになる　②できなかったことができるようになる　③受動的ではなく主体的に取り組む　④新しい考え、考え方を知ること

※　「参加」とは･･･　頭をフル回転して取り組むこと（静かに話を聞いていることや板書を写すだけではない）

※　「夢中」とは･･･ それぞれの教科のおもしろさ、ときには難しさに興味や関心をもち、深く考える姿。すぐに分かった、できたということではない。

※　「授業づくり」とは･･･ 上記のことを踏まえた授業を、教師と生徒の双方向からつくり出していくことにより、学びを深めるだけでなく、仲間とのつながりを深めたり、よりよい学校づくりにつなげたりする。

※「よりよい学校づくり」とは･･･授業づくりを通して培った仲間とのつながりを生かして、自分たちの学校運営について話し合ったり、行事の振り返りをしたりして、生徒が自ら考え、正しい判断・行動をすることで、よりよい学校を目指していくこと。

(1) 努力点設定の理由

本校では、これまで生徒同士の「学び合い」や「認め合い」など、「仲間と学ぶ」という考え方を根底として授業づくりを進めてきた結果、生徒同士が協働したり、疑問を探究したりする姿が多く見られるようになった。こうした姿は、「ナゴヤ学びのコンパス」に示される「目指したい子どもの姿」や「重視したい学びの姿」と合致するものであり、今後も生徒を主役とした授業づくりを追究していく必要がある。

また、学び合う姿を、授業のみならず行事や生徒会活動などにも生かすことで、よりよい学校づくりにつなげることにも重点を置いて実践を進めている。「生徒指導提要」においても「教科の指導と生徒指導を一体化

させた授業づくり」の必要性が掲げられているように、生徒一人一人が主体的に学習に取り組む中で得た自己指導能力を、生活面・特活面にも波及させることが求められる。

そこで、今年度の努力点も引き続き「ナゴヤ学びのコンパス」に基づく授業づくりと、「生徒指導提要」に基づく生徒指導を両輪として、よりよい学校づくりを進めていきたいと考える。

(2) 学校努力点の推進方法

○ 今年度努力点の指針となる「ナゴヤ学びのコンパス」と「生徒指導提要」について教師が学ぶ機会を設け、共通理解を図る。

○ 努力点達成に向けて、教師は、次のことを意識し、授業改善を心掛ける。

- 生徒が夢中になる課題を設定する
- 「学びは、8：2」、生徒が話す場面 8、教師が話す場面 2 を意識する。
- 教師は子どもの学びに伴走する。(教師はファシリテーター役)
- 生徒に、「訊き方」を意識させる。

※ 「訊くときは、話し手を見て頷きながら訊く」「話すときは、教員を見て話すのではなく、生徒の方を見て話す」等

○ 「『学び』に向けての『学び合い』とはどんな形式か」、「頭をフル回転させて授業に取り組むためには」などについて理解を深める。そこで、①一人１授業実践を行う。全員が参観できるような特別研究授業を設定する。②講師を招いて指導を受け、授業改善を図る。③自分の授業を振り返り、授業改善を図るために、お互いに授業を見合ったり、振り返ったりすることができるようにする。④校務に支障のない程度に、「学び」の先進校の授業を参観し、他の職員と共有する。

○ 月１回程度、「くまちゅうタイム」を設け、全校生徒で自分たちの学びについて振り返らせたり、生徒指導上の課題や学校行事について対話させたりすることで、よりよい学校づくりへとつなげられるようにする。

○ デジタルサイネージを活用することで、全校集会や行事、授業の様子などを効果的に伝えていく。また、学びについて情報発信することで、生徒たちがより深く学びを理解し、自分たちで考える力を養うことができるようにしていく。

(3) 学校努力点構想図

